

寄り添う一人ひとりに
ひとりひとりの政治を。

そ世
だ田
ち谷

つるみけんご

世田谷区議会議員
無所属

通信
vol.11

このたび、「つるみけんご通信」をお手に取って頂き、誠にありがとうございます。本通信では、令和2年6月に行われた「世田谷区議会令和2年第2回定例会」での一般質問の内容をまとめました。お読みいただけましたら、幸いに存じます。



動画はこちらから
ご覧いただけます。



世田谷区としての保健・福祉政策①

今般の新型コロナウイルス感染症は、罹患された方のみならず、子どもから大人まで、私たち区民の生活のあらゆる面において様々な影響を及ぼしています。

外出自粛要請がなされる中、5月11日、区長は言論サイト「論座」における対談やご自身のTwitterで、過去に「行政改革によって保健所が統合された」という旨の発言をされています。

しかし、改めて、当時の世田谷区の様々な資料や議会での議事録等から、「過去の世田谷区としての保健・福祉政策」を振り返ってみると、『世田谷区は、行政改革によって保健所の統合や整理縮小を進めていったのではなく、むしろ、当時の保健所と福祉事務所の再編により、より身近な地域での保健・福祉の充実を目指すとともに、高度専門性の高い世田谷保健所を開設した』ことがわかります。

区長の一連の発言は、「区長の個人的な見解か、それとも区としての認識なのか。」ということを問いました。

また、区長がTwitterで発信されている「保健所の充実と再建」については具体的な内容が示されておらず、改めて、区としての考えを問いました。



つるみけんごコメント

区は、「発言は、個人として発信されているものであり、区が関与しているものではない」「感染症対策の抜本的な体制強化が急

世田谷から未来を変える。

特定の団体や企業のためではなく、しがらみのない立場で、本当に困っている人の声を受け止められる“一人ひとりに寄り添う政治”的実現を目指して「つるみけんご」は、活動を続けます。

鶴見健悟プロフィール

- 1986年(昭和61年)
10月12日生まれ 33歳
 - 世田谷区立駒沢保育園、駒沢小学校、駒沢中学校、東京農業大学第一高等学校、東京農業大学応用生物科学部バイオサイエンス学科卒
 - JA東京中央会 元職員
 - 衆議院議員 長妻昭 元秘書
 - 公務員試験専門 喜治塾 元講師
 - 世田谷区議会議員に初当選(得票数4491票)
- 企画総務常任委員会、災害・防犯・オウム問題対策等特別委員会、消防団運営委員会に所属



つるみけんごは
「認知症サポーター」です!

務であり、専門人材の確保・育成の取り組みとともに、今後の保健所組織のあり方について検討していく」と答弁されました。

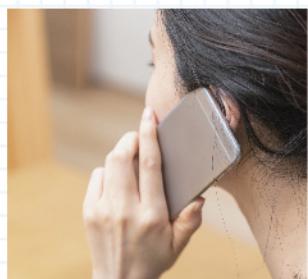
誤った認識のもとでの組織改編は、思わぬひずみを生む可能性があります。特にこれまで区が築き上げてきた地域の保健・福祉が後退することがあってはなりません。過去の経緯を踏まえた上で、今回の教訓を活かし、改善していくべきであると考えます。

世田谷区としての保健・福祉政策②

世田谷区では、感染が拡大する中で、相談センターの電話がつながりにくいという状況が続いているました。

前述の対談の中で、区長は「回線の増強については、4月の初めごろから準備を進めていた」、「回線6本体制を整えるまでに10日近くかかった」と発言されています。

こうしたことから、今般の緊急時において、「区としての危機的状況に対する対応力」が不足していたことは明らかです。



一方で、世田谷区としては、「世田谷区基本計画」の重点政策として、区民が、身近な地区での相談支援体制を全地区で確立すること、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられるよう保健・医療・福祉サービスの基盤の整備や生活支援サービスの充実すること等を掲げています。

区民の命と健康を守るために、「緊急時の柔軟かつ適切な対応」と「平常時の地域の保健・福祉のさらなる充実」は両立されなければならないものであると指摘しました。



つるみけんごコメント

区は「両立を図り、区民の命と健康を守る体制作りについて検討する」と答弁されました。緊急時の対応の強化は当然のことですが、それにより平時の地域における保健・医療・福祉サービスがおろそかになるということがないよう、両立した体制整備に向けての提言を続けて参ります。

世田谷区の財政と事業見直し

今般の新型コロナウイルスによる区財政への影響について、本年3月の予算委員会で、区長は、「リーマンショック以上の税収減も想定しなければならない。」との見解を示しています。(リーマンショックは、区財政にその後4年間で約267億円もの減収を招きました。)

限られた予算の中で、区民生活を守るために業務を維持していくには、これまで行ってきた事業やこれから行う予定であった計画のものも含め、そのすべてを見直し、それぞれの事業と施策に優先順位をつけて、判断していかざるを得ません。

今般の事業見直しや今後行われる見直しにおいては、例外なく、全ての事業が対象となるのか、さらに併せて、区にとって最大規模の事業である区役所新庁舎についても、当然、この事業見直しの対象となり、施策の優先順位を判断していく上での俎上にあがるという認識で良いか、以上2点を区に問いました。



つるみけんごコメント

区からは、「施策事業全体の抜本的なあり方を追求する必要がある。本庁舎整備などの大規模事業についても聖域を設けることなく検討し、総合的に判断したい。」との答弁がありました。区民生活や意識も変わり、世の中の働き方も変わる中で、庁舎整備の計画だけが感染症拡大前の計画のままで良いのか検証が必要です。

区は8月を目途に中期財政見通しを出す予定ですので、それらを踏まえた今後の区の対応を注視して参ります。

新型コロナウイルス感染症による区民生活への影響① ～元気な高齢者の活動を支える～

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会は変容し、感染拡大前に行われていた地域活動等は休止となり、今なお、再開に踏み切ることができないという状況が続いている。

とりわけ、高齢者の方々による様々な活動の休止や感染への恐怖心による閉じこもりは、これまで元気であった高齢者の方々の体力の低下や社会的孤立化を招くことが懸念されます。

元気な高齢者の方々の社会参加や地域活動は、ご自身の健康に寄与するだけでなく、私たち現役世代や子ども達に、かけがえのない知恵や経験、さらには活気をもたらす大変貴重なものです。

個人の命と健康を守るという観点、そして地域社会を守るという観点からも高齢者の方々の健康を維持しつつ、活動を継続していくような仕組みを、区としても考えていくべきではないかと指摘しました。



つるみけんごコメント

区は「新しい生活様式の中での健康づくりや高齢者の交流機会を提供する取り組みについて、さらに工夫し充実を図る」と答弁され、区が検討している新たな取り組みの例も紹介されました。

今後、地域の方々に広く波及するような仕組みを展開していく必要があると考えています。引き続き、担当所管と意見交換しながら取り組みを進めていきたいと考えます。



新型コロナウイルス感染症による区民生活への影響② ～いじめを防ぐために～

新型コロナウイルス感染症により、すでに医療従事者や物流を担う職業の子どもが差別的扱いを受けるなどの事例が発生しています。どのような状況においても、新型コロナウイルス感染症を理由にした差別やいじめはあってはなりません。

世田谷区として、いじめや差別を起こさないようにどのように取り組むのかを聞きました。



つるみけんごコメント

この質問に対し、区の答弁はほとんど従来の取り組みの延長で対応することの話のみで、特段の対応は検討されていないことが明らかになりました。いじめや差別は、相談窓口を設ける等の対処療法だけでは不十分であり、起こさないための予防策がその対策の基本にあるべきです。区として、積極的にいじめ・差別防止に取り組む姿勢が示されなかつことは残念でなりません。引き続き、いじめの予防・防止の重要性を訴えて参ります。

新型コロナウイルス感染症による区民生活への影響③ ～子ども達の健やかな成長を支える～

子ども達の心と体の健全な成長をどのように確保していくかということも考えていくべきです。新型コロナウイルス感染拡大前と後では子どもが見る地域の風景は異なるはずです。

区の子ども政策として新型コロナウイルス感染症拡大後の子どもの健全な成長を支えるために、区としてどのような方針で取り組むのか、区の考えを聞きました。



つるみけんごコメント

区の答弁は、いじめ・差別に関する答弁と同様に、このような危機的状況に際し、従来の計画や枠組みの延長で対応しようとしているのではないかと思われる答弁でした。これに対し、「区の危機感の欠如に、子ども達の健やかな育ちが確保できるのかということを強く危惧している。」と申し上げました。



計画策定前とは社会が大きく変容する中で、従来の計画では対応できない部分については見直しを図ることが重要であると考えます。今後も区の危機意識の低さを指摘し、改善していただくよう訴えて参ります。

つるみけんご日々の活動発信中!!

つるみけんごの一日の動き、時事ニュースへのコメント、世田谷の話題など、盛りだくさんの内容です。ぜひフォローをよろしくお願いします。



k-tsurumi.net



つるみけんご

